



## ☆ ペルセウス座流星群の観察 ☆

天文気象部ではお盆前の8月12日の夕方、野球部のマイクロバスを借りて学校から30分ほどの霧ヶ峰に登り、スピカの星食とペルセウス座流星群の観察をしました。

富士見台の駐車場に着いたのは日没のころで、遠く槍・穂高に沈む夕日に、あたり一面赤く染まっていました。

まだ青みが残る空に月齢5.5の月が浮かび、望遠鏡を向けると、その鎌のような先端におとめ座の1等星スピカが青白く輝いていました。まもなくスピカは月に隠され、30分ほどしてふたたびその姿の現われるのが観察されました(図)。



その後、持参したブルーシートに腰を下ろし、しだいに星の数が増えていく夜空を眺めていると、10分に1つほど、ペルセウス座の方向からの流星が観察されました。

学校に設置しておいたカメラでも、ひと晩で十数個の流星が自動撮影されていました。

今後の課題として、8月2日に撮影された火球(図)とあわせ、流星の軌跡と経路の解析に挑みたいと思っています。



本校で8月2日観察された火球

**観望情報** 9月8日(日)の夕方、西南西の空に土星・月・金星・スピカが一行に並びます。19時半からの諏訪湖花火(サマーナイトフェスティバルのフィナーレ)との饗宴が楽しみです。

## ☆ マス・フェスタに職員が参加 ☆



8月25日(日)大阪府立大手前高等学校が主催して行われた「マス・フェスタ」(大阪府「エル・おおさか」)に数学科の職員が先進校視察の一環で参加しました。マス・フェスタは、SSH指定校のみならず数学を研究する高校生が一堂に会して普段の活動を発表するフェスティバルです。今年度は、全国から37校が参加し、本県からは屋代高校がポスター発表で参加しました。

以下は、参加した数学科今井教諭の報告の抜粋です。

マス・フェスタは5分科会に分かれていて、日立一高、横浜サイエンスフロンティア高、県立岡崎高、県立膳所高など8校の発表を聞いた。ポスター発表では、屋代高、筑駒高、大阪教育大天王寺高、

堀川高のポスター発表を聞いた。屋代高校の2名は、「雪かきの最短経路」「 $y = (-2)^x$ のグラフ」といった内容を針金でグラフの模型を立体的に作り説明するなど、面白いものだった。

印象に残った生徒発表は、自分でテーマを見つけ、自分で解決しようとしたものであること。教科書の内容を一般的に拡張したもの。誰かがすでにその研究を行ってしまったとかは気にすることなく、生徒達が、高校の学習で興味をもったり、本で知ったり、高大連携講座で大学の先生に紹介していただいた内容など、そのときの生徒にとって旬の数学に取り組んでいた。生徒が皆、いきいきと発表していたことが印象的であった。来年は諏訪清陵高校も参加できるとよい。

